

ル 3
391
1

聖蹟圖志
才志帖





神代

代陵

三位保貴



聖蹟圖志第一帖標目

神代三陵圖

取陸人田原萬實之圖考縮寫六張

大和國陵墓惣圖

全南都奈保山佐保山諸陵

附楊梅陵平坂坂上墓

全佐

貴卿盾列池南北陵菅原東西陵迨指圖

全田原東西陵及川

上陵圖 城上郡山邊道上二陵

全高市郡檜前及身

狹越智並 畝傍山四邊諸陵圖 河內和泉國諸陵惣圖 全磯

長三陵並 御墓山之圖 全錦部郡長野及黑山村百舌八幡以

北大山陵迨圖 全高麗 以東惠賀長野畷田並古市高屋丘

坂門原埴生坂迨一圓陵墓圖 攝津丹波國陵圖 以上

攝津國嶋上郡太田村繼體天皇三嶋藍野陵 全安威山大職

冠古廟圖 淡芻原郡加集中村廢帝廟社 並當麻氏淡路墓之

圖 讚岐阿野郡綾松山頌證寺崇德天皇白峯社頭搥圖 紀

芻名草郡宮之鄉和田村彦五瀬命竈山墓 並社圖 近江國志

賀郡園城寺大友帝後淡海陵圖 勢芻能裏野日本武尊白鳥

冢圖 遠江國引佐郡井伊谷龍潭寺宗良親王印塔及二宮大

明神圖 以上未鐫

薩摩國高城郡
水引卿埃之山陵并
端之陵中之陵及
俗云可愛之陵
等之圖



北

南

河内南
薩摩郡
隈城郷

薩摩國高城郡水引郷宮内村内
天津彦火瓊杵尊之埃之山陵之圖



今称神山
新田八幡宮

東

西

四

大隅國肝屬郡內之浦鄉北方村之內
 日子穗穗出見命之高屋山上之陵
 國見嶽并廟高屋大明神及
 景行天皇行宮之蹟天子山之圖

北
 日子穗穗出見命之
 高屋山上之陵今
 國見嶽云



天子山瓶之圖

景行天皇高屋行宮之跡
 正一位高屋大明神社國
 見嶽之陵迤一里三十四
 丁五十間也

馬場八十三間
 中三回半

西

五

大隅國肝屬郡始良郷上名村之山中
 日子波限建鷄草菅不命之吾平山之上陵
 中之嶽藏 御廟鷄戸巖洞鷄戸大明神社之圖

日子波限建鷄草菅不命の吾平之山止陵を書紀小崩於西
 州之宮因葬日向吾平山上陵とあり。大隅國肝屬郡吾平
 郷今始良又始良書く。高屋陵の内に郷より
 北小當り高山郷を隔て隣りていと述。上名村の内中之嶽の巔上小今
 藏王権現の社右に此所也。嶽上東西四間余南北二間余の平地ありて其真中
 余の平地ありて其真中少砂少高くして周で一丈二尺余の九き菅の石平
 たり國見嶽も同シ又社の御前左の殿小樹右の殿小樹生たり嶽上の四方
 圖山向小憩く香も焚かれ堂も小半里と云所也同九一里程あり此所より
 往古に此嶽を吾平山といひ今も土人始良の嶽と云て尊敬し事いと詳
 して鷄戸巖洞あり。二十五六町程隔る巖洞と北の方小向ひて掘拾二間余
 社の右の殿小赤土にて高サ三尺上六寸程周で一丈一尺程立り俗小此所
 非あり神代山陵考もわろし一物又知國此所と河の照とて大板蓋の社也又社の
 平山上陵とありとも述へ今國人此所を深く尊敬し事いと詳。因小五層の
 學敬せしむと御廟の舊記に見えし土人云てさもつる。因小五層の嶽は始良郷
 巖洞と焚給せむと御廟の舊記に見えし土人云てさもつる。因小五層の嶽は始良郷
 八其已前まで巖洞の奥入拾一回もつりしならむと云此所も尋常の地小
 を隔て廟より鷄戸大明神と云。大隅内村也。實殿東西三間南北
 三間。御庭の左右小隨神王社より鳥居二間あり并殿
 より内の鳥居迄二十七間外鳥居迄二十町程委く
 と依圖志る也。

陵山中之嶽藏
 藏王権現社
 四万四千六百餘坪
 中之嶽周三二十六町
 今高サ二十町余
 巖洞より辰巳の方
 當りて二十五町余隔る

東



神代三柱神の御陵を吾薩摩國大隅國の嶽上より
 日向國小名記事を世小知る人死を已常小あふれとみゆて御陵小
 心ゆ人あらしめとらまふるせきも存くおひひ都小うり乃々津又并清影
 ぞ此聖蹟圖志をあらわし神代の山陵を記をせ給ふと云
 ぞおのせり小處ありしを流しをて物あるをせ給ふと云
 其國画をせよと云と云ふつさ埃山陵を其迎せり住み山崎良尚く
 二陵をその禁小住居一重某小つりて今つるもの
 日と慶應元年乙丑といふと此月十日餘り九日小玉女
 のお世都るの核のやとりてらんかくいふ
 真人の薩摩國人
 真賢貝本舎通主 田系竹馬宮久

北

以上縮圖請鑄

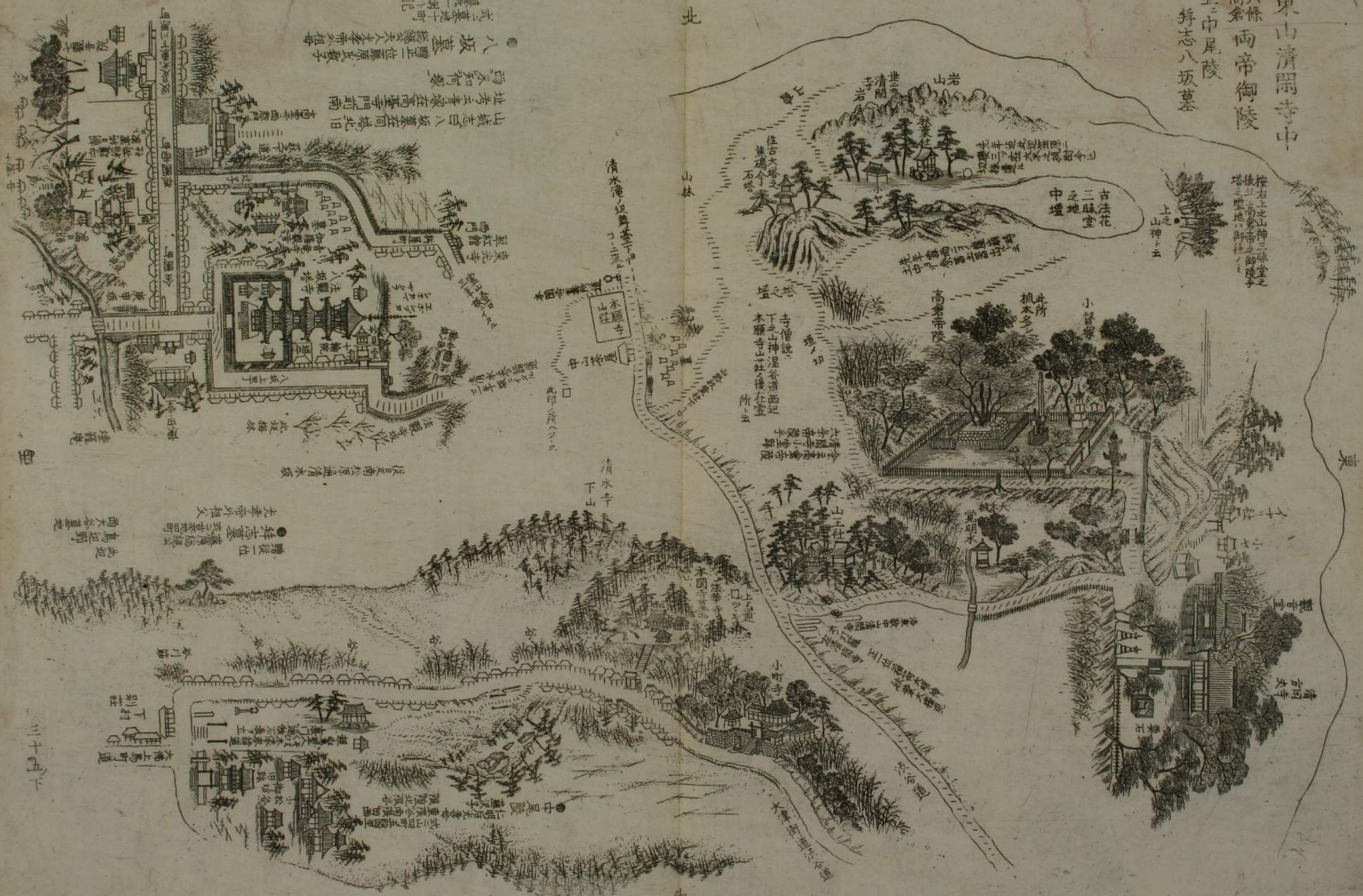
玄三堂松多緑山刀

日天ヨリ
 二十町ホト
 手前二ノ
 鳥居アリ

東山清閑寺中
 六條 高倉 兩帝御陵
 並 中尾陵
 并志八坂墓

按右之上山神三昧堂之
 塔之遺地八坂墓也

北

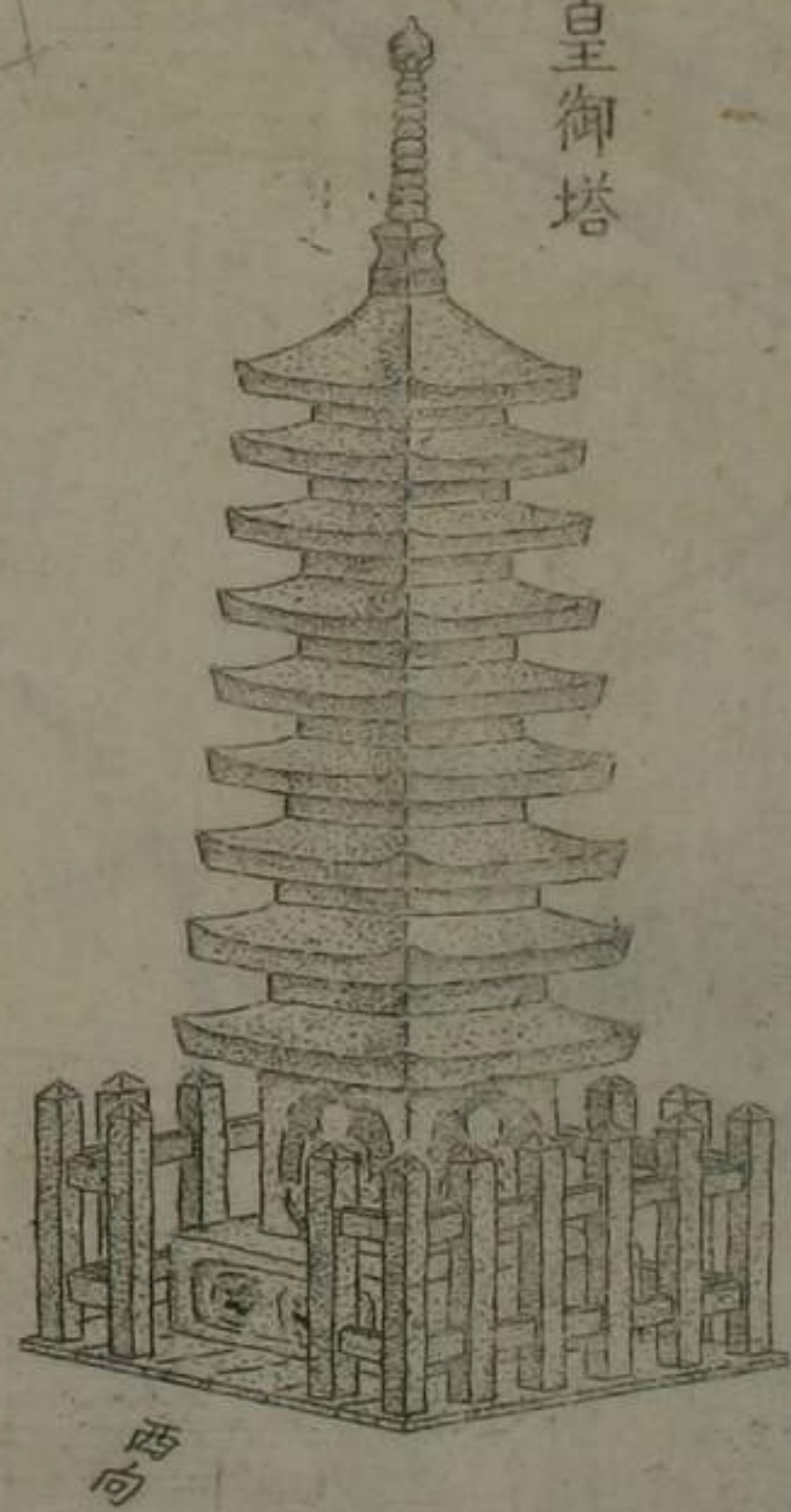


山城志曰八坂墓在岡城北
 址考云青塚在高倉寺門前南
 西不知何塚
 ●八坂墓 贈正二位藤原成敏子
 松尾夫人生孝赤須母
 式墓地十町
 墓一炳一記

贈從一位
 ●并志雲清公
 尤孝帝外祖父
 西谷墓地
 鳥辺野
 此地

泉涌寺後山古代御陵圖

四條院天皇御塔



後小松院天皇末決御印木
稱光院天皇

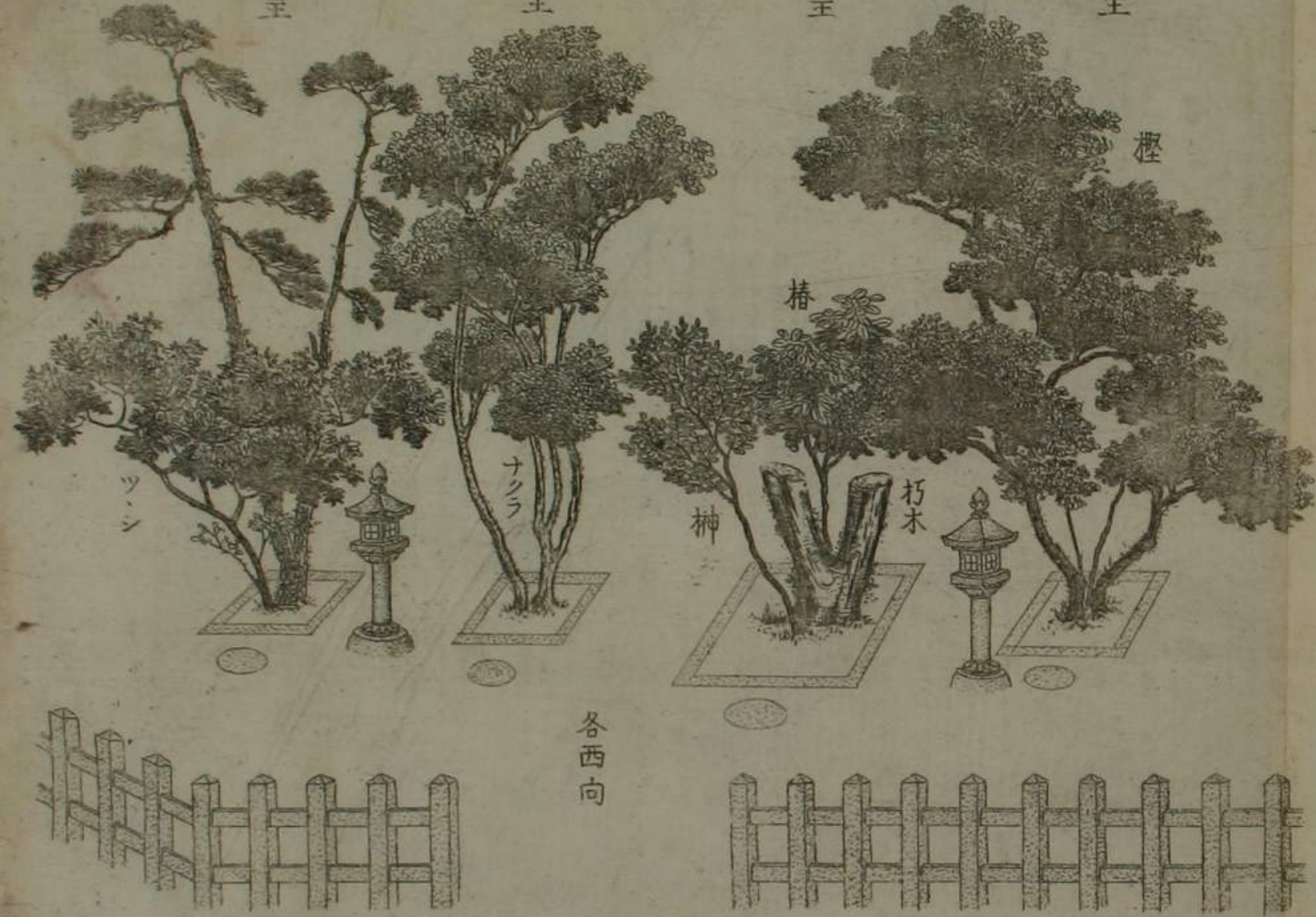


正親町院天皇

後奈良院天皇

後柏原院天皇

後土御門院天皇



前王廟陵記云泉涌寺有後土御門院
後柏原院後奈良院正親町院四代
御墓相並南上西向御墓上表以樹
木
寺說爲北上西向今從之
僧徒敬曰御木様

延暦時代陵製考附圖

一 高島陵

皇太后藤原氏
在山城國乙訓郡
向日町西北三町許

向日町西北三町許

東



石跡之大へら

向日神社

此道西方
灰方村ニシテ

一 石作陵

贈皇后高志内親王
在山城國乙訓郡灰方村
西南圓尾山土人丸山ト云

東



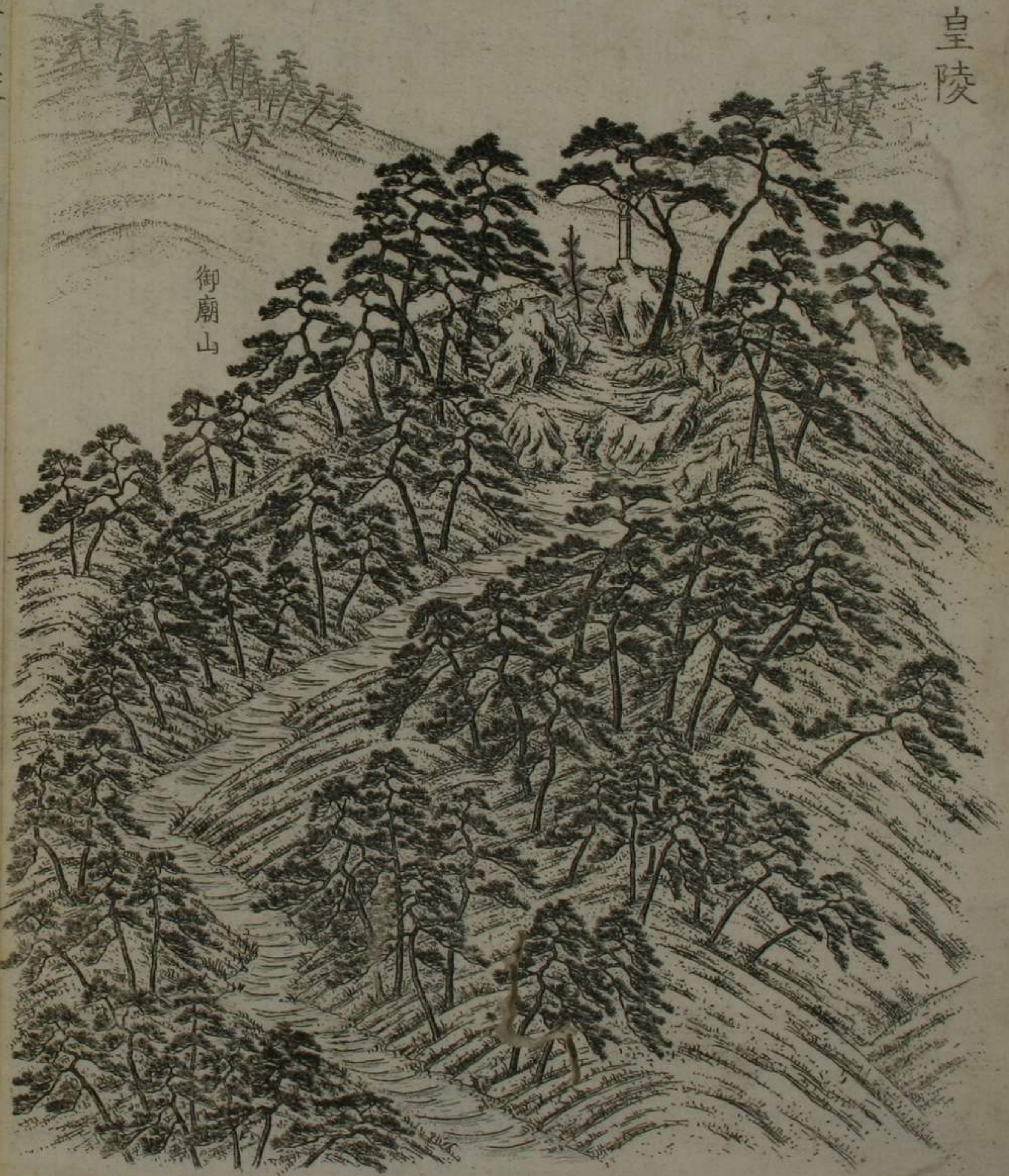
三鈴寺

△大原野

在長野南
郷中有三村 野田 柳川 南條

北

嵯峨天皇陵



御廟山

嵯峨天皇陵

一 續日本後紀曰承和元年七月丁未^{十五}太上天皇崩于嵯峨院春秋五十七遺詔曰云々擇山北幽僻不毛之地葬限不過三日云々穿阨淺深縱橫可容棺矣棺既已下了不封不樹土與地平使草生上長絕祭祀云々戊申^{十六}擇山北幽僻之地定山陵以高布二千段錢一千貫文奉充御葬料即日御葬畢

一 山槐記曰元曆元年八月廿三日巳卯今日被立御即位山陵使翌日於攝政亭左大辨經房云向嵯峨不知其所相尋邑老之處大覺寺内北方山云々向件寺之間一町餘車不通忽騎馬向彼所拜了燒宣命歸亭

一 皇年代略記曰承和九年七月十五日崩^平葬嵯峨院北山地

一 山城志曰嵯峨山陵在嵯峨大覺寺北御廟山

今案ふに陵山故國為陸郡少嵯峨大覺寺の西方の山字を清廟山とよふ山の頂にあま丘陵の形ありき山頂の平地乃よ大ある石七つもの星形に是清廟なるは天皇の清遺詔に擇山北幽僻不毛之地を穿阨淺深縱橫可容棺矣棺既已下了不封不樹土與地平使草生上と見え身詔京甚よく合へり嵯峨清涼寺の園中二尊院の後山に在る此帝の陵と稱へるものや皆後世に傳へたるものなり天保十二年この帝の一千年乃清涼とありて大覺寺清門跡に架建られ米の大方原木の奉持等おほ大石の後に立たりと云ふ

